

Meet the Musicians

楽団員紹介

色鮮やかに東響を支えるバス弾き

久松 ちず

Chizu Hisamatsu

[コントラバス・フォアシュピーラー]1997年9月入団

趣味:編み物。最近はセーターを編みました!



©N.Ikegami

学内唯一のコントラバス奏者に

中学1年生のとき、コントラバスと出会いました。元々ピアノを習っていて、中学入学後ブラズバンド部で打楽器を担当していたのですが、ちょうど学校でコントラバスを買うことになり、白羽の矢が立ったのが私だったのです。学内で唯一のコントラバス奏者になりました(笑)。

当時は、弦楽器のざらついた感触がとても新鮮で、低音で支えるのがとにかく大好き。合奏が楽しくて仕方が無かったので、音楽高校に進学してからも「オーケストラに入りたい」と考えていました。

色へのこだわり

洋服など、元々“色”へのこだわりが強く、最近は髪色で楽しむようになりました。「コロナ禍の中で美容師さんに貢献したかったから」「最新の技術を試したかったから」「黒髪がちゃんとしている”、”男性は短髪”といった風潮に思うことがあったから」など、理由は様々。今は赤いメッシュを入れています、インナーカラーにはっきりとした色を入れてみたり、マスクと眼鏡ですっきりしないサイドの髪を刈り上げてみたり。ヘアスタイルから変化を楽しんでいます。

私は人が自分の好きな色を身に纏ってウキウキしている雰囲気がとても好き。似合う似合わないに限らずに、自分が好きなものを身に着けるって素敵ですね。「あの人にはこの色が似合いそう」なんて考えることも好き。ノット監督の色?間違いなく黄色ですね!(笑)

大切にしているのは“人に聞く”こと

私はおしゃべりなので休憩中も楽団員と話していることが多いです。リハーサルで分からない事は多々あるのですが、自分の引き出しは決して多くはないので周囲の方々に聞き、教わることでカバーしようとしています(笑)。私は人と話すことも聞くことも好きなので、これからも皆さんと沢山コミュニケーションをとれたらと思っています。

東京交響楽団は、私が入団した時からすごくあたたかくて、仲間を迎え入れるこの雰囲気は今も変わらない良いところ。お互いを尊重しあう環境を、今後も受け継いでいきたいです。



自作の靴下。「自分で作ったと思われぬように編む!」ほどの腕前。



おばあちゃんっ子で、祖母相手によくおしゃべりをしたり、大好きな歌をふり付きで披露したりしていました。

インタビュー:事務局